

# 平成31年度 年間指導計画

A科:生物科学科 B科:環境科学科 C科:食農科学科

教科名	農 業	科目名	農業と環境	単位数	2	履修学年・クラス	1B
担当者		使用教材	農業と環境(実教出版)				
学習目標	1 農業生産と環境の関連を理解し、作物の生理・生態や特性を知る。 2 作物栽培の基礎的技術を習得する。 3 学校農業クラブについて関心を持ち、プロジェクト学習の特徴を知る。						
学習方法	1 基礎的栽培技術を身に付けるために、プロジェクト学習法を取り入れた作物の栽培を体験する。 2 農業の社会的な役割と環境・暮らしの関わりについての理解を深めるために、農業関連施設の見学を取り入れる。						
学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨				
	関	関心・意欲・態度	農業の各分野及び環境の実態や動向について興味と関心を持ち、それらが抱える諸課題の解決・改善を目指し、意欲的に取り組もうとする態度を身に付けることができる。				
	思	思考・判断・表現	農業生物の生理・生態や地域環境の観察や調査・記録に基づき、適切な栽培管理の選択、環境問題に適切に対応することができる。				
	技	技能	作物栽培(飼育)に合わせた管理実習が計画的且つ継続的にできるとともに、実態に即した環境学習が適切にできる。				
	知	知識・理解	農業生物の生理・生態を理解し、作物栽培管理の基礎的・基本的な知識と技術を習得している。 農業及び環境に関する基礎的知識を習得しているとともに、農業生物の栽培・飼育環境、環境保全・創造の重要性について理解している。				
※定期考査については、上記の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。							

学期	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			関	思	技	知		
前期中間	○学校農業クラブ活動	農業クラブとは 意見発表等について	○	○			【関】学校農業クラブと作物栽培に関心を持ち、農業の機能や役割について積極的に学ぼうとすることができる。	定期小テスト レポート 授業観察 定期考査
	○栽培の基礎① (ダイズ・ジャガイモ・トマト・サツマイモ)	・タネの発芽・種まき (ダイズ・ジャガイモ・トマト 等) ・発芽試験と観察(作物の生理・生態) ・栽培環境とその管理・生育調査① (大気・土壌環境、土壌生物、作物養分と肥料)	○		○		【思】学校農業クラブの意義や作物の生理・生態的な特性と生育について自らの考えを持つことができる。	
	○栽培各論①(イネ①)	・イネの生育 ・田植え実習	○			○	【技】作物の生育状態に見合った適切な栽培管理ができる。  【知識】農業生物の育成環境に関する基礎的知識を身に付け、各要素が生育にどのような影響を及ぼすかを理解することができる。	
前期末	○栽培各論② (リンゴ①)	・摘果実習	○		○		【関】プロジェクト学習と作物栽培に関心を持ち、農業の機能や役割について積極的に学ぼうとすることができる。	定期小テスト レポート 授業観察 定期考査
	○農業と環境を学ぶ	・プロジェクト学習とは	○	○		○	【思】プロジェクト学習の意義や作物の生理・生態的な特性、地球環境について自らの考えを持つことができる。	
	○栽培の基礎② (ダイズ・ジャガイモ) (ダイコン、ハクサイ)	・栽培環境とその管理・生育調査② (大気・土壌環境、土壌生物、作物養分と肥料) ・エダマメ、ジャガイモの収量調査・収穫 ・秋野菜のタネの発芽・種まき (ダイコン、ハクサイ)	○	○	○	○	【技】作物の生育状態に見合った適切な栽培管理ができる。  【知識】農業生物の育成環境に関する基礎的知識を身に付け、各要素が生育にどのような影響を及ぼすかを理解することができる。	
後期中間	○栽培各論③ (イネ②・リンゴ②)	・水稻の収量調査・収穫 ・リンゴの収穫	○	○	○		【関】作物栽培に関心を持ち、農業の機能や役割について積極的に学ぼうとすることができる。	定期小テスト レポート 授業観察 定期考査
	○栽培の基礎③ (ダイズ・ダイコン・ハクサイ)	・ダイコン、ハクサイの収穫 ・ダイズの収穫と利用	○	○	○	○	【思】作物の生理・生態的な特性と生育について自らの考えを持つことができる。  【技】作物の生育状態に見合った適切な栽培管理ができる。  【知識】農業生物の育成環境に関する基礎的知識を身に付け、各要素が生育にどのような影響を及ぼすかを理解することができる。	
後期末	○農作物の利用 ○飼育の基礎 (肉牛) ○学習のまとめ	キムチ作り、豆腐作り 牛舎管理 プロジェクト学習のまとめと発展	○	○	○	○	【関】農作物の利用や飼育管理に関心を持ち、農業の⑥産業の役割や畜産の意義について積極的に学ぼうとすることができる。  【思】農作物の加工に関する特性と動物の生命について自らの考えを持つことができる。また、学習のまとめをまとめることができる。  【技】適切な農作物の加工法と動物の生育状態に見合った適切な管理ができる。また、学習のまとめを発表することができる。  【知識】生物の育成環境と農産加工に関する基礎的・基本的知識を身に付け、その意義について理解しまとめることができる。	定期小テスト レポート 授業観察 定期考査